

# 第2期十日町市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 令和4年度 総合評価シート

■基本目標 I：安定した就業の場を増やす・基盤となる人材の育成と活躍を支援する

数値目標	2018 (H30)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	目標数値設定の考え方	担当課
	年度末実績 (総合戦略策定時)	上段：年度末目標目安 下段：年度末実績						
20歳から64歳における就業率	85.00% (R1市民アンケート数値)	—	85.5% (R3市民アンケート数値)	—	85.5% (R5市民アンケート数値)	86.0% (R7市民アンケート数値)	【2024 (R06) 目標値】 令和元年度市民アンケートでは、回答者680人のうち就業者は578人であった。人口減少に伴い就業人口も減少すると思われるが、安定した雇用環境を整備しつつ、就業者数の増加を図るため86%を目標値として設定。	企画政策課
		—	88.4% (R3市民アンケート数値)	—				

総合評価	B+	推進会議 総括	<p>基本目標 I：「安定した就業の場を増やす・基盤となる人材の育成と活躍を支援する」はアンケート未実施年であり、数値目標での評価は困難であるため、達成に向けた取り組みを中心に評価する。</p> <p>「農業の競争力強化」にあつては、関係機関と連携したフォローアップの取組や、経営が不安定な就農初期の支援が功を奏し、年度末目標目安を上回る結果が出ている。就農者の入口は多様になっており、女性や移住者の就農促進、スマート農業の普及に向けた政策推進を期待する。</p> <p>「地場産業の活性化」では、ポストコロナ社会に向け、市内企業による新分野への展開や事業転換などの新たな投資への動きが見受けられ、地域産業の振興にかかる目標目安も達成することできた。きもの関連産業にあつては、体験・受入事業は感染症対策のため制限されたため目標未達であるものの、設備投資の上昇、見学者の受入数は増加傾向にあることから、次年度以降の成果を期待したい。地域商社の売上は首都圏飲食店の受注減が影響して目標目安には若干届かなかった。一方で新規開拓の芽が出てきており、今後も最終ターゲットを意識した商談会や営業活動の尽力が望まれる。</p> <p>「新規創業・新分野への支援」にあつては、継続的に実施する取組や支援が功を奏し年度末目標を大きく上回った。今後も創業ニーズや支援策・手法を収集しながら、創業と事業の持続的発展がしやすい場所として世間から認知されるよう、取組を発展されたい。また、経済・社会環境の変化が激しさを増す中で、既存産業の新分野進出、第二創業の促進は避けがたい。二の足を踏む企業や創業間もない企業に対し、各種機関と連携しその支援を図ることを望む。</p> <p>「基盤となる人材・組織の育成」では、企業版ふるさと納税導入により、応援寄附金額は伸びつつある。一層の理解形成のため、各団体の寄附金活用事例や寄附金募集の工夫を共有し、地域団体やNPO法人の協働を推進されたい。市内高等学校卒業生の地元就職率はキャリア教育等の取組により、目標目安を上回る結果となった。今後も参加企業、高校教諭の協働推進を図りながら、小学生・中学生へのキャリア教育等の充実も視野に事業発展を目指されたい。</p>
------	----	------------	--

《R3評価》  
B+

■基本目標 II：地域の魅力を更に磨き、選ばれるまちを目指す

数値目標	2018 (H30) 年度末実績 (総合戦略策定時)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	目標数値設定の考え方	担当課
		上段：年度末目標目安 下段：年度末実績						
社会動態	△472人 (H26～30 年度平均)	△466人 (R02年度)	△460人 (R02～03年度 平均)	△454人 (R02～04年度 平均)	△448人 (R02～05年度 平均)	△442人 (R02～06年度 平均)	【2024 (R06) 目標値】 基準数値から移住・定住の推進、転出抑制のための取組等により、毎年の社会動態を10人減少させ、5年間で合計30人の社会動態による人口減少抑制につなげる。	企画政策課
		△299人 (R02年度)	△324人 (R02～03年度 平均)	△343人 (R02～04年度 平均)	令和2年度 △299人 令和3年度 △349人 令和4年度 △382人			
交流人口	260万人 (H26～30年度 平均)	230万人 (R02年度)	290万人 (R02～03年度 平均)	240万人 (R02～04年度 平均)	240万人 (R02～05年度 平均)	260万人 (R02～06年度 平均)	【2024 (R06) 目標値】 大地の芸術祭第9回展のR6年度を目標300万人とし、平均値を算出。基準数値を維持。	文化観光課
		167万人 (R02年度)	165万人 (R02～03年度 平均)	204万人 (R02～04年度 平均)	令和2年度 167万人 令和3年度 164万人 令和4年度 283万人			

総合評価	B+	推進会議 総括	<p>基本目標 II：「地域の魅力を更に磨き、選ばれるまちを目指す」の達成状況は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が窺える。交流人口は大地の芸術祭の開催年であったことから増加しているが、安定的確保のためにブランディング施策の推進、地域内外の主体との連携促進が一層望まれる。</p> <p>「都市部からの移住定住促進」にあつては、複数の事業を重層的・継続的に実施したことにより、移住者増に繋がった。「十日町市移住コンシェルジュ」の開設により、移住検討者への伴走支援が功を奏した。今後も移住検討者の特性を解析し、ニーズにあった対応を促進されたい。地域おこし協力隊の定着率は全国平均を大きく上回り、隊員と地域のミスマッチを防ぐ取組をはじめ、各種政策の効果が出ている。引き続き、地域おこし協力隊の積極的な活用や地域全体として移住者を受け入れる機運を醸成し、隊員の活躍に繋がる取組を推進されたい。</p> <p>「地域の魅力を活かした交流の促進・世界への発信」では大地の芸術祭の開催や外国人旅行者の入国制限が緩和された事もあり、一定の成果が出た。ポストコロナを見据え、多様な国籍・文化の人々に現地での魅力体験を提供できるよう、地域の自然、文化資源の魅力増進・連携促進の戦略構築と実践が求められる。また、アドベンチャーツーリズム（アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行）の充実を図り連泊推進と旅行需要の獲得を一層図られたい。</p> <p>「郷土愛の育成・十日町ファンの拡大」は、キャリア教育等の推進による高校生の地元就職意識の醸成が図られており評価できる。とおかまち応援寄附金寄附者数は目標目安に至らなかったものの、寄附者数は大幅に伸びている。継続的な関係に至れるよう、魅力的な返礼品の開拓と発信、さらに絆を深められるようなコミュニケーション施策の展開に工夫が求められる。</p>
	<p>《R3評価》</p> <p>B+</p>		

■基本目標 III：結婚・出産・子育て環境の充実・誰もが活躍できる社会を実現する

数値目標	2018 (H30) 年度末実績 (総合戦略策定時)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	目標数値設定の考え方	担当課
		上段：年度末目標目安 下段：年度末実績						
出生数	327.2人 (H26～30年 平均)	300人 (R02年)	300人 (R02～03年平 均)	300人 (R02～04年平 均)	300人 (R02～05年平 均)	300人 (R02～06年平 均)	【2024 (R06) 目標値】 年々出生数が減少する中で、妊娠・出産・子育て支援や結婚促進により、出生数を維持することを目標とする。	健康づくり推進課
		243人 (R02年)	233人 (R02～03年平 均)	217人 (R02～04年平 均)	令和2年 243人 (確定値) 令和3年 223人 (確定値) 令和4年 186人 (確定値)			

総合評価	B	推進会議 総括	<p>基本目標 III：「結婚・出産・子育て環境の充実・誰もが活躍できる社会を実現する」では、ここ数年来同様に世情が不安定であることから、十日町市にあっても出生数が減少している。十日町市の出生数の向上にむけ、出産・子育て環境のさらなる充実や、結婚を機に移住した方のコミュニティの場づくり等、多様な生活スタイルに配慮した社会の実現が強く望まれる。</p> <p>「男女の出会いや結婚の支援の充実」は年度末目標目安に達しなかったが、新規会員数が増加、マッチングは大幅に増加したことから今後の交際・成婚に繋がり得ることが窺える。小千谷市との広域連携も進む中、出会いの機会のさらなる創出を行うとともに、結婚を希望する男女を市全体で応援する体制の構築に努めて欲しい。</p> <p>「出産・子育て環境の整備・充実」では、市民の要望によって整備した児童センターの利用者は大きく増加し、目標目安を達成した。多様なニーズに対応した保育の提供や児童センター等の適切な運用と充実をより一層、図って欲しい。「合計特殊出生率」については減少傾向にある中で、多子世帯の保育料の無償化等で経済的負担の軽減を図るとともに、子どもを望む世代の充実に取り組んだ。今後も各種施策と連動させながら、妊娠期から子育て期の各段階のニーズに応じた切れ目のない支援の充実が必要である。</p> <p>「誰もが活躍できる社会の実現」において、「ハッピー・パートナー企業」登録増加に向けては関係機関の協力のもと、市独自のメリット等の周知を徹底する必要がある。また、健康寿命の延伸に向け、高齢者の就労、生きがいづくりなどにつながる活動への支援、障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、就労支援事業所と連携した支援が求められる。さらに十日町市民に多文化共生の意識を醸成するためにも、外国人が安心して生活できる受入環境や相談体制を一層、整備されたい。もって多様な力の協働による地域創生を目指すことが望まれる。</p>
			<p>《R3評価》 B</p>

■基本目標 IV：安心して暮らせる時代に合った地域をつくる

数値目標	2018(H30)	2020(R02)	2021(R03)	2022(R04)	2023(R05)	2024(R06)	目標数値設定の考え方	担当課
	年度末実績 (総合戦略策定時)	上段：年度末目標目安 下段：年度末実績						
「住み続けたい」と思う人の割合	63.6% (R1市民アンケート数値)	—	64.0% (R3市民アンケート数値)	—	64.5% (R5市民アンケート数値)	65.0% (R7市民アンケート数値)	【2024(R06)目標値】 R1市民アンケートでは、回答者1,065人のうち「住み続けたい」と回答した人は677人であった。選ばれて住み継がれるまちを目指し、目標値を65%と設定。	企画政策課
		—	67.3% (R3市民アンケート数値)	—	/	/		

総合評価	A	推進会議 総括	基本目標IV：「安心して暮らせる時代に合った地域をつくる」は、アンケート未実施年であり、数値目標での評価は困難であるため、達成に向けた取り組みを中心に評価する。
			<p>「新しい時代の地域づくり」では、再生可能エネルギーの創出量の目標目安が達成された。エネルギー供給が不安定さを増す中で、産官民連携により自然エネルギーやバイオマスエネルギーの推進を一層図り、脱炭素・循環型社会の早期構築を期待する。未来技術を活用した新たな取り組みの推進にあつては、目標を達成しているが、利便性だけでなく不安解消に向け、分かりやすく丁寧な周知、説明が求められる。うおぬま・米ねっと加入率の増加にあつては、マイナンバーカードでは対応できない介護分野への活用を推進するとともに、若年層へのPRもさらに工夫を重ねられたい。</p> <p>「安心して暮らせる地域づくり」にあつては、予定された市道、流雪溝整備も順調に進み、克雪対策の事業が概ね目標を達成したと判断できる。地域の要望や状況を踏まえ、冬期間の市民生活の安全確保及び利便性の向上に向け、今後も計画的な対応を進めて欲しい。地域包括ケアシステムでは、複数の協議体が設置され、予定どおり計画の進捗がなされた。引き続き丁寧な調整を進めるとともに、介護予防・生活支援サポーターの担い手養成にも努め、十日町市民が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できる地域が増えることを期待する。</p>
	<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; display: inline-block;">                 &lt;&lt;R3評価&gt;&gt;  <b>A-</b> </div>		